

銘柄についで

銘柄とは即ち名前とい、之もいれだろウナ
ど、単なる名前とちがった内容のふくみもあ
る、名前が示す味とか歴史とか。

で、飲み食いについでには、人々に気がぬ
してもはじまらないから、自分の好み、感じ
でいろいろと書いてみよう。読んで感成する
ヒト、反対なヒト、あれは賛成これは反対と
まじるヒト、千差万別になつて、当り前なものを
決して賛成多数であるようにとは思、これな
い。

さこそこで、酒といえは種とくる。
いま、目の前にも手近にも、参考書なんぞ
一つもなし、酒の酒として思いだせるのが

いくつあるか。

ちよ、と書いてみる。

偏正宗、日本盛、白鶴、自長へここは工場
新設工事に行つたことあり、松竹梅、金露、
多聞——

うん、こんなものを、いや、それから大好き
な創菱。

沢之鶴、月桂冠となると瀬か伏見かあやし
くてきめかぬる、それから大関は酒だろウな。
白雪は伊丹の酒だし、池田には根正宗と段香
と二つあつたけど、ど、ちか一つはツブした
とか聞ける。

おれの好きなのは前に書いた、た創菱。
だけどこの酒、あんまり売、てない。
巻でいうと、立ちのみさせてる酒屋では中

島にはある。それから今池市場のなかの酒屋、
これは立ちのみしてない店。あとは釜の茶屋、
取の西、パチニコ屋の筋向いの酒屋ぐらいか、
居酒屋では北門通りのHとていうところ。

なぜ好きか、というところから。大体、酒口ふつう甘口と辛口にわけられるけど、おれが思うにはサッパリとベタベタに付けた方がいいような感じだ。

たとえば伏見の酒で五乃光というの、これなんかが甘口だ。サッパリしてるからおれにはいい。

いやなのは何か、というところ、金露がその方のトツで、以下白豊と月狂冠と日本盛だ。しかし釜の立ちの美酒（専向の）は、わりとこの手の酒が多い感じ。

広島も酒の名所で賀茂鶴、酔いなんぞ知られてるが、ちも立ち飲みには甘い酒だ。

三浦布美子がテレビで宣伝してるの、口替符か、おれを一時へ三浦布美子なんかより、と前よく飲んだ。でもいまはダメだ。

おれが知ってるのは高知の可也、土佐鶴、これに工佐鶴がいい。

熊本には美少年と之のがある、と意外と甘い。美少年と聞いたら白虎隊のこと考えちゃ

立ち飲みじゃないけどおれたちが現場帰りに入りやすい程度の干エーン店を所々立ち真門に充てている。さ、どこかそんな店に入ら、たおぼえがみんなにあるだろう。いまおれが思いつくのは神指酒蔵に近いうちだ、ほかにも大分ミヨシ正宗の店はあるよ。

ついでに焼酎のことを書いとこうか。

ま、タカラ焼酎は別に並し長表を見ておれか。通る、アルコールと水だけのものだから何をいふことはない。いや、そうじゃなかった。焼酎はタカラばかりでなく、ダイヤとか万工とかある、飲んで見ると同じアルコールと水だけでもそれと味がちがうんだ。しかし、どれをいふというには及ばないだろう。

現在おれこれと宣伝してるのは鹿摩一鹿摩、高尾の焼酎と球磨へ熊本県し焼酎だ。

鹿野島の酒は白波、おはら、芋人、小鶴とおれは知ってる。

そしておれもきりかへは小鶴（特に六年

って会津（福島県）の酒かと思ったら、直つて取れた。会津の酒は会津ほまじ、とやつた。

同じ東北の秋田では下平山へ工野駅前に私邸がある、そこ、私邸の屋上にネオニを立ってこれた、竹と燗酒。北海道へ行くと北の酒だ。これはいりゆる空口で、別の酒なん

て宣伝してる。しかしまあ、こんな一流品、知られた酒じゃないのが、金にはいろいろある、で、おれが面白。

たとえばカツ裏の公園の南にある立ち飲み専売の飲の屋では干煎酒、というの。いまこの「渡世」を充て、この酒が立ち飲みや、この酒は都正宗、というの。山王町北門通りの酒屋兼立ち飲みのみつめ屋では一番之のなんか、店それと小個有の酒だ。大御所という酒を、てる立ちのみもある。

も、と知られたらさ口ミヨシ正宗、酒は、

保存というのがある、一番口当りがいい。それ以外なら球磨焼酎が一升飲んで七目戸だから守くていいな。

千エウより強い酒盛は、三由公園のそば、警察の北、側、新世界ジャニョーン町のホルモノウどん屋なんかで飲め、これもまた悪くないけど、不ルモノを食ひすぎるとアラを咽やけるし下痢するし、気を付けな

くらやいけなし。

知ったかぶり風に書いてきたけど、釜の立ち飲み焼酎の現実にはこんなノイが通甲しな

いんたよな。

なぜか？、というの

だ、て考えこみな。立ち飲み屋で、こちらから入、て行、たらおれは具合に注文を聞いてくる。

まずこうだよな。

「酒？、ビール？」

そこでこ、ちが、酒、と答える。すると、

「一組？ 二組？」

「こうなつてくるだろ。」

「つまり、甘口だろうと辛口だろうと」

「とサッパリだろうとベタベタだろうと」

「と秀る文は関係ない、このこと、高い」

「酒のお味が安い酒しかのめないのか、」

「向うはそれを聞いてくるだけ。雅も」

「伏見もへ、たくれも関係なしなんだ、」

「ひどい店を口が、酒入れてるジヤ」

「ーが残り少なくなると、いままで日」

「本成を入れててまだ残、このところ」

「へ、新しくか、んした市正京をっぎこ」

「んぞ早然としている。」

「これじゃあ両方の酒がまぶくなる、」

「オケラケラケラカラッペツ、とにかく」

「く一杯やれさえすりゃいい、この時は」

「らどもかく、ちのんとせは、この飲」

「む時はもう少し神経使つてほしいネ、」

釜閩委の小屋撤去

西成の公園 機動隊が出勤

大阪市は十四日朝、大阪市西成区花園北一、花園児童公園内に「釜ヶ崎越冬闘争実行委」の編組

酒代表「三」が建てた小屋を、持ち込んだ腐材などを都市公園法に

基づいて簡易代執行し、撤去した。再三にわたる撤去命令に

応じないためにとつた措置だが、労働者たちの抵抗も少なく、作業は約

一時間で終わった。

昨年十一月、同実行委から公園の使用申請が出され、市は不許可にしたが、実行委は腐材などを

持ち込んで約二十平方メートルの小屋を設

置、公園の南側半分を占拠した。

さる一月に市は公園を大掃除したが、五月初め、再び「仕事をよこ

せ」と小屋を設け、便所まで作った。付近の人たちの苦情と衛生上の

問題から、市は今日一日に「六月五日までに撤去せよ」との公告

看板を出したのが放逐されたままなので、簡易代執行に踏み切った。

撤去作業は大坂府警に協力を求め、制私服警官三百人が警戒する

なかで、午前十時から市職員二十人と執行業者二十人で開始。小屋

のなかには編組代表ら労働者約三十人が座り込み、口々に「仕事を

持つて来い」などとシュプレヒコールをくり返した。市の退避勧告

に応じないため機動隊員がゴボウ敷きした。